

谷崎潤一郎全集

全26巻

訂正・補足一覧

2017年9月

中央公論新社

行数は、基本的にアキ行も一行と数えた。ただし、戯曲・シナリオ・歌集など、体裁が異なるものは、実際の行のみを数えた。／は改行。

第一巻 刺青 羹 悪魔

朱雀日記

・423頁13行 搏風（はくふう）↓搏風（はふ） 初出以来、この表記が踏襲されていたが、一般的な読み方に変更した。

解題

・522頁下段7行、536頁下段9行 橋本五葉（誤）↓橋口五葉（正）
・524頁下段16行、527頁上段1行、528頁上段16行、530頁下段2行、532頁下段4行、534頁下段4行、536頁上段

7行、545頁上段12行、549頁下段3行 昭和二十九・二・十五↓昭和二十九・二・二十五
・536頁上段11行 昭和三十二・二・二十五↓昭和三十一年・四・二十五
・537頁下段22行 昭和二十五・十・三十↓昭和二十五・九・十五
・542頁上段12行 大正十五・十一・五、新潮社↓大正十五・八・五〔大正十五・十一・五の奥付本有〕、新潮社
・553頁下段4行 七月八日の↓七月五日、六日、八日

第五巻 二人の稚児 人面疽 白昼鬼語

解題

・514頁下段14行、518頁上段9行のあとに挿入 / 愛読

愛蔵版全集第五巻（昭和五十六・九・二十五、中央公論社）の「月報5」に、「なお、著者歿後、蔵書の中に改造社版全集に加筆した手入れ本が若干発見されたので、本巻中の「金と銀」「白昼鬼語」についてはこの手入れ本と照合し、若干の補訂を加えた。」とある。

・579頁上段3行 グリープ家のバアバラの話↓グリープ家のバアバラの話〔翻訳〕
・587頁下段6行 没後版全集第二十二巻（昭和四十三・八・二十四、中央公論社）（誤）↓新書判自選全集第十四巻（昭和三十四・七・十、中央公論社）（正）

第六巻 小さな王国 母を恋ふる記 呪はれた戯曲

解題

・553頁上段17行、561頁上段19行 朝鮮雜感（誤）↓朝鮮雜観（正）

第十巻 アヰ・マリア 肉塊 無明と愛染

解題

・456頁上段1行 「作者記す」として、以下の断り書きが付されている。↓「作者記す」として、以下の断り書きが付されている。この文章は没後版全集第二十三巻（昭和四十四・三・二十五、中央公論社）に「無明と愛染作者断書」として収載された。

第十三巻 黒白 卍（まんじ）
猫を飼ふまで

解題

・524頁上段4行のあとに挿入 / なお、「黒白」の自筆原稿八枚が、朝日新聞社史編修センターに所蔵されている。

・531頁下段17行のあとに挿入 / なお、「卍」の冒頭の、自筆原稿一枚が、慶應義塾図書館に所蔵されている。

また、昭和六年四月に改造社から刊行された『卍（まんじ）』初刊本に朱を入れた「書き入れ本」が日本近代文学館所蔵「谷崎松子氏寄託 谷崎潤一郎蔵書」に収められている。

・557頁上段11行のあとに挿入 / なお、昭和二年九月

第十二巻 赤い屋根 友田と松永の話 饒舌録

解題

・557頁上段11行のあとに挿入 / なお、昭和二年九月

十六日付の東京日日新聞に「芥川龍之介全集刊行に就いて」という文章が掲載され、同文である。ただし、末尾に「因みに、詳細は近く岩波書店の発表について見てもらひたい。」という一文が付されている。

第十四巻 青塚氏の話 夢喰ふ虫 三人法師

解題

- ・543頁下段12行 没後版全集第二十三巻（昭和四四・三・二十五、中央公論社）（誤）↓改造社版全集第六巻（昭和六・一・二十八）（正）

第十五巻 乱菊物語 盲目物語 吉野葛

解題

- ・519頁下段20行 次のような断り書きが掲載された。
↓次のような断り書きが掲載された。この文章は没後版全集第二十三巻（昭和四四・三・二十五、中央公論社）に「大衆小説乱菊物語前篇終り作者記」として収載された。

第十七巻 蘆刈 春琴抄 陰翳礼讃

春琴抄

に収蔵されている自筆原稿と初出文にあることから、追加。

解題

- ・618頁上段13行 四十三丁↓二十二丁（四十四頁）
- ・626頁上段12行 第七号↓第一巻第七号
- ・629頁上段16行 十月二十日↓十月二十七日
- ・631頁上段16行 愛読愛蔵版全集第二十三巻（昭和五十八・七・二十五）（誤）↓没後版全集第二十四巻（昭和四十五年・七・三十）（正）

第二十一巻 少将滋幹の母 幼少時代

解題

- ・563頁上段20行 源氏物語草紙（誤）↓源氏物語草子（正）

第二十三巻 三つの場合 当世鹿もどき 残虐記

解題

- ・526頁上段10行、11行、22行、下段2行 夢想庵（誤）
↓無想庵（正）

第二十五巻 初期文章 談話筆記 創作ノート

初期文章

- ・107頁15行 未熟さ（誤）↓未熟さ（正）
- ・陰翳礼讃
- ・192頁3行 覚えるのか。（誤）↓覚えるのか、（正）

第十九巻 細雪 上巻 細雪 中巻

細雪 中巻

- ・359頁13行 西銀座（誤）↓西銀座（正）

解題

- ・558頁上段12行、13行、17行 第五十八巻↓第五十八年
- ・609頁上段8行 第五十三巻↓第五十三年
- ・609頁下段18行 第五十四巻↓第五十四年
- ・616頁上段10行 第五十五巻↓第五十五年

第二十巻 細雪 下巻 都わすれの記 月と狂言師

細雪 下巻

- ・225頁11行 未長く（誤）↓未長く（正）

都わすれの記

- ・351頁14行 吹く風も弥生めきつ、梅の花↓或る日／吹く風も弥生めきつ、梅の花 「或る日」という詞書を初刊本に書きもらしたもの（初刊本の本文は松子夫人の揮毫による）。天理大学附属天理図書館

- ・115頁12行 日光詠雑（誤）↓日光雜詠（正） 初出以来、この表記であったが、「校友会雜誌」第百六十四号により訂正。

ありのすさひ

- ・654頁12行 勅旨（ちようし）（誤）↓勅旨（ちよくし）（正）

なお、日本近代文学館には谷崎松子によって寄託された、『細雪』上巻の私家版（自筆の訂正貼り込みがある）、『卍（まんじ）』の書き入れ本のほか、戦後作品の初出文をスクラップブックに貼り付け、単行本化する際に谷崎自らが朱を書き入れるなどした切抜帖が所蔵されている。

これらは寄託資料で、館の目録にも公表されていないが、この『細雪』上巻の私家版と、『卍（まんじ）』の書き入れ本は、過去の展覧会で繰り返し展示されたため、その存在が知られていた）、日本近代文学館展示室で展覧会「全集完結記念 新資料から見る谷崎潤一郎―創作ノート、日記を中心にして」（二〇一七年四月一日から六月十日まで）が開催された折、図録の巻末に「谷崎松子氏寄託 谷崎潤一郎蔵書目録」として掲げられた。

本全集では、全作品の底本と初出紙誌、単行本との校合をおこない、その校異を各解題に記したが、この資料の存在に言及することができなかった。ただし、これらは単行本化の際に朱を書き入れたものであることから、その内容はすべて解題に反映済みである。切り抜きの主なものを列挙すれば、以下のとおりである。

- 「少将滋幹の母」一・二
- 「鍵」一・二
- 「瘋癲老人日記」一・二
- 「当世鹿もどき」一・二
- 「台所太平記」一・二・三
- 「夢の浮橋」
- 「高血圧症の思ひ出」
- 「雪後庵夜話」
- 「女優さんと私」
- 「島津夫人対談 若き日の和辻哲郎」
- 「三つの場合」
- 「京羽二重 おしやべり」
- 「残虐記」一・二
- 「幼少時代」一・二
- 「文壇昔ばなし」

- 「過酸化満俺水の夢」〔原稿切抜〕
- 「雑文原稿」